



万人のための教育であるが、
質の高い教育とは？

グローバル共生研究所 林 真樹子 助教
教育社会学・国際教育開発論（途上国の比較教育政策、カンボジアのインクルーシブ教育）

研究のテーマ

途上国の子どもの教育権利を守る教育開発協力とは（インクルーシブ教育が全ての子どもにもたらす学習効果の可能性）

研究テーマの内容、研究活動

今では「インクルージョン」や「多様性」といった言葉を良く耳にすることはあるでしょう。私が研究を継続しているカンボジアの教育現場では、教育を受ける権利から最も排除されやすい障がいのある子どもたちが多くいます。障がいに限らず、ジェンダー、民族性、貧困、居住地といった挑戦を抱える子どもたちが学校に通えるようにすることはもちろんのこと、それらの多様性が全ての子どもたちの学習効果を高めると言われているのが「インクルーシブ教育」です。

しかしながら、皆が理想とする「インクルーシブ教育」を進めるのは途上国に限らず、日本のような先進国においても容易なことではありません。

それが顕著となっているのが各国の教育政策で生じている乖離及び政策と学校現場における乖離です。私はこれまでインクルーシブ教育の比較教育政策について研究してきましたが、現在は乖離を縮める上で重要となる実証研究をカンボジアで実施しています。具体的には、障がい児と共に学ぶ障がいのない子どもたちにとってインクルーシブ教育がどのような学習効果をもたらすのか。認知的能力に加えて非認知的能力の側面から分析しています。なぜなら、近い将来カンボジアのインクルーシブ教育現場からの実証研究が日本のインクルーシブ教育を後押しをしてくれる事例研究だと信じているからです。



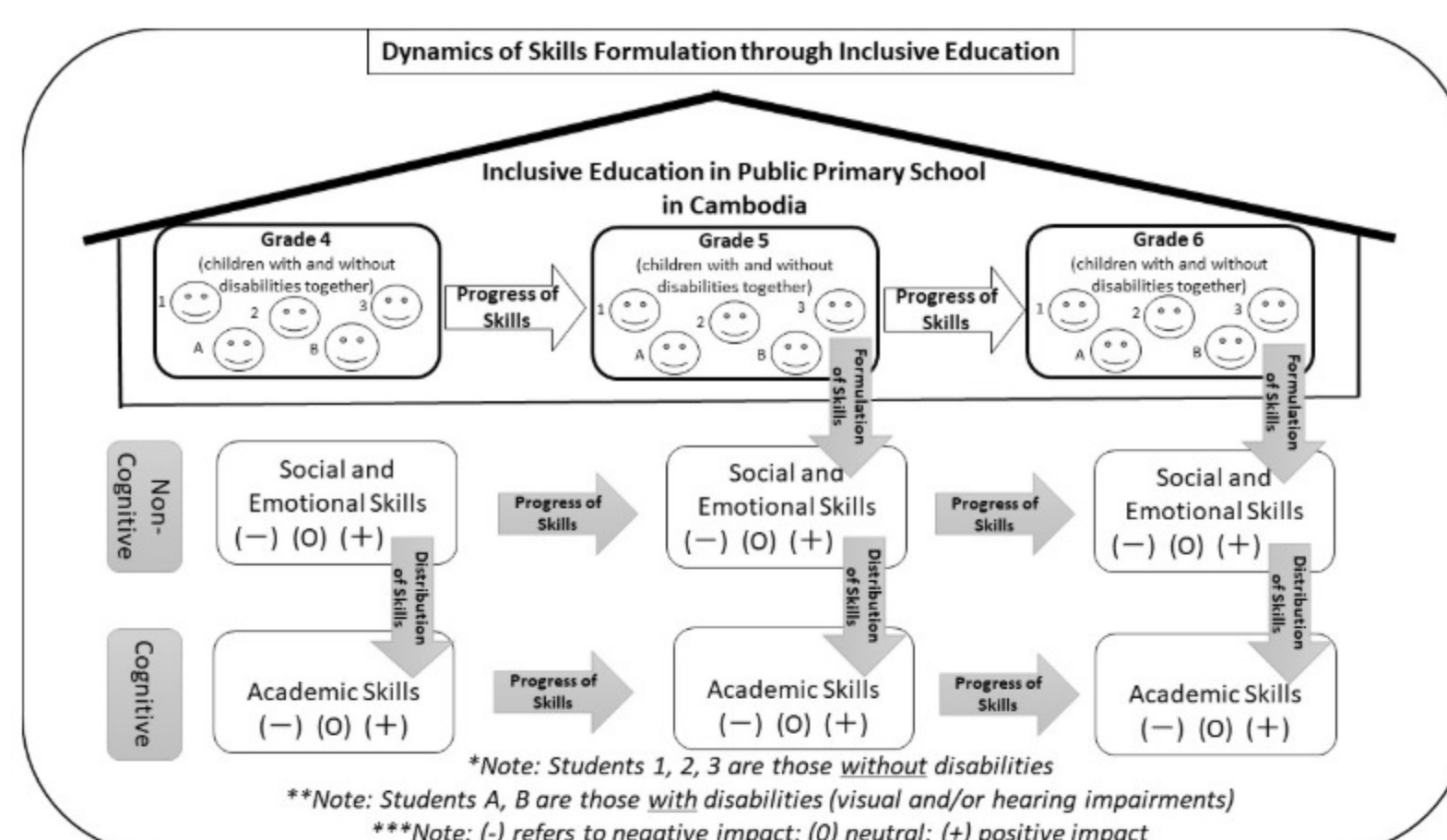
カンボジアの公立小学校で障がい児と共に学ぶ非障がい児の教育効果研究

研究テーマの意義・面白さ

私がインクルーシブ教育の研究を始めたのは大学院生の時でした。その理由は、当時はほとんど聞きなれない教育理念でありましたが、国際開発アジェンダであったミレニアム開発目標（Millennium Development Goals）が掲げていた「万人のための教育」から取り残されている最後の5%、10%の子どもたちの教育を受ける権利を守る鍵を握っていたのが「インクルーシブ教育」だと確信したためです。

また、初めてカンボジアの教育現場に足を踏み入れたのは15年ほど前になりますが、今なお研究を継続しており、カンボジアの教育開発研究の礎になっています。

誰もが、インクルーシブ教育は理想の教育概念に過ぎないと思ってしまうのも一理ありますが、私はこの教育形態がもたらす偉大な可能性を今後も追い続けていくことと思います。この教育概念は、子どもたち一人ひとりが自分らしく学習することを可能とし、子どもたちは教わることもなく自然と互いを助け合うようになります。これこそが社会人となる子どもたちにとって一番大切な学習効果ではないでしょうか。



高校生や学生へのメッセージ

大学生になると多くの学びの機会を自らの意思で自由に選ぶことができます。自分自身についても自らふりかえる時間も増えるでしょう。皆さんはそうした「自分自身」に与えられた貴重な時間を大切に活用されることと思いますが、自分自身の学びを深める過程において周囲に助言を求めることが必要不可欠です。私自身の経験も踏まえて、学生生活の間、皆さんと共に自分探しのお手伝いできれば嬉しいです。